

会議録

会議の名称	第1回 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会
開催日時	令和元年10月30日（水） 10時00分から11時30分まで
開催場所	市役所別館4階 第2委員会室
出席者	座長：新川委員 委員：小西委員、高木委員、谷本委員、原田委員、平井委員、松元委員 宮原委員、山本委員
欠席者	今井委員、橋本委員
案件名	1. 意見聴取会の運営について 2. 第2期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）について
提出された資料等の名称	資料1 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する意見聴取会委員名簿 資料2 意見聴取会の関係例規 資料3 第2期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）について 参考資料1 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂版
決定事項	1. 委員の互選により、座長に新川達郎委員を選出した。 2. 意見聴取会の傍聴については、資料2の傍聴に関する取り扱い要領のとおりとし、会議録を公表することを確認した。 3. 第2期枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）について内容を確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	なし
所管部署（事務局）	総合政策部 企画課

1. 座長の互選について

座長選出までの間は事務局で進行を行い、その後、委員の互選により、座長に新川達郎委員を選出した。

●座長挨拶

○新川座長 互選により座長の任に就かせていただくことになった。皆さんと協力しながら、より充実した戦略となるよう努力していきたいと考えている。どうかよろしく願いたい。

2. 案件1「意見聴取会の運営について」

○新川座長 本意見聴取会における傍聴の取り扱いについては「資料2」の要領どおりとし、会議録については発言者名を明らかにした会議録を各委員に確認した上で公表することによりか。

○委員一同 異議なし。

3. 案件2「まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）について」

（資料3「まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子）について」に基づき、事務局から説明）

●質疑・意見交換

○山本委員 大阪府も枚方市と同様、第2期の総合戦略策定作業を進めているところである。

枚方市の第2期総合戦略策定に当たっては、国の地方創生推進交付金等の積極的な活用を見据えて、策定していただきたい。また、枚方市駅前で再開発が進められているが、枚方市民が「素晴らしい枚方市駅前の再開発になった」と魅力を感じられるような取り組みを、地方創生推進交付金等をしっかり活用して進めていただきたいと思う。交付金の活用については大阪府としてもサポートさせていただく。

○事務局 いただいたご意見を踏まえ、取り組みを進めていきたい

○小西委員 政策指標の数値が高いのに対して、3つの基本目標の主観的成果指標の数値が低いのが気になる。一度に改善できるものではないが、まだまだ改善の余地はあるのではないかと。

また、鉄道事業者の取り組みの違いもあると思うが、枚方市駅前をはじめとした京阪沿線に対して、JR沿線の開発が進んでいないように感じる。枚方市全体のバランスをとって、また、ある程度エリアごとに分けて、道路や交通など重点的に取り組むまちづくりを計画して推進して行けば、満足度も上がっていくのではないかと。

○事務局 市民の満足度について、他市の公開されているデータと比較しても、もう少し上げていく余地あるものと感じている。バランスのとれたまちづくりについては、市駅前だけではなく、市駅前の賑わいをどう市全体へ発展させていくかということについて考えていく必要がある。ご指摘いただいたエリア別での取り組みなどについても検討していきたい。

また、JR沿線での取り組むべき課題として、王仁公園の老朽化対策をどのようにしていくのかということを検討している。現在、公園の運営に関して、パークマネジメントという新しい考え方が出てきており、大阪城公園のように収益を生み出す公園ということと、民間企業の方々の意見やアイデアを頂きながら検討していく方向で考えているところである。

○原田委員 総人口はどんどん減っている一方で、総世帯数が増えている。両親の介護であったり、子どもの保育園の問題であったり、今まで家庭で行っていたことが、家庭の外、社会で支えるという形になると思っている。このことについて、子どもや高齢者を地域の近所のコミュニティなどの力を借りて支えていこうといった案とか考え方について既に検討していたり、今後検討する予定はあるのか。

○事務局 枚方市では従来から地域のコミュニティとまちづくり、地域づくりに取り組んできた。ご指

摘の点について地域で支える部分と行政が担う役割を整理していく必要があると考えている。

少し違う観点になるが、核家族化の傾向があるなかで、三世帯同居を促すような補助制度を数年前から開始した。転居に伴って、例えば親世代と同居する場合に補助金を交付するという取り組みである。スタートから3年程経過するので、更に効果的な取り組みとなるよう今年度見直しをしていくこととしている。

○原田委員 その利用率はどうか。

○事務局 予算はいつも満額に達している状況と聞いている。平成29年度、平成30年度の実績は60件前後の交付となっている。

○宮原委員 若い方々から三世帯同居で補助金をもらって同居すると、世帯の総収入の計算上、同居人の収入が合計されることで保育料が高くなるので、三世帯同居はしにくいという声を聞く。

○事務局 ただ今のご意見のほか、同居は家の構造上難しい場合もある。三世帯家族・定住促進事業の補助金の条件には、同居に加えて近居も可としており、それぞれの形の中で子育てを支えていただければと考えている。

○谷本委員 基本目標1の産業活性化のところについて、民間事業者を後押しする取り組みを行うことで、市税の増加や雇用の創出など市民生活にメリットがあることを見えるようにして、産業が活性化するまちの満足度が高まっていけばいいと考える。

基本目標3の医療に関連するところで、枚方市は医療機関が充実しているので、なぜ市民の満足度が下がっているのか疑問にも思うところ。関連するところで、たとえば海外から先進的な医療を受けたいという方を枚方に呼びこんでいくことで、枚方市の賑わいにもつながってくると思うので、そういうことに取り組んでいくのもよいのではないかと思う。

人口ビジョンについて、転入人口の増加や子育て世代の転入超過を目指した取り組みとあるが、地域間での人口の取り合いではなく、地域間の協調を図っていく、交流の中核を枚方市が担っていくというほうがいいのではないかと考える。また、出生率が上がらないと国全体の人口減少には歯止めがかからないと思うので、国の施策の中で地域がどう役割を担うのかというところが重要な視点であるように思う。そのあたりを今後の素案の視点として検討していただければと思う。

○松元委員 人口ビジョンで示されている2040年といった将来を見据えると、今の子どもたちがまちを支えてくれる年齢になってくる。人口が減少する中で地域や、市民活動を支えていく人をどう育て、どう活かしていくのか、というところが大切だと思う。枚方で教育を受ける子どもたちが枚方に興味をもってくれる、枚方に根付いてもらうというような取り組みの視点を入れてはどうか。

また、今後の人口減少社会において、行政に求められるニーズがどんどん増えていくと予想される中、行政だけではできないことも増えていくと思う。財源も減っていく中で魅力を高めるためには、市民などとの連携協力のコーディネート役に回るのが重要ではないかと思う。

○新川座長 お金がない、人がないという中で、選択と収集の力を、市民の力を上手に組み合わせるような力が市役所には必要になってくる。

○平井委員 大阪の大きな流れとして、震災以降、BCPの対策の関係で事業者が湾岸部から内陸部へ移ろうという動きが強くみられている。枚方市では第二京阪道路が開通して、交通環境が整ってきている。東大阪や八尾では事業用地がないような状況だが、枚方市はまだ土地もあり、発展のポテンシャルがあるのではないかと考える。そういったことから、企業誘致の施策や都市計画施策などによって産業が発展し、雇用も創出できる余地があると考えている。

○高木委員 枚方市内で仕事をしていると、交通渋滞がひどいと感じる。解消に向けた取り組みを行うことで、より住みやすいと感じるまちになると考える。

また、枚方市のイメージとしては「ひらかたパーク」が思いつくが、地元のメディアともタイアップしながら枚方の魅力をいろいろな形で発信していけば、まちの活性化につながると思う。

○新川座長 いろいろとご意見ありがとうございました。枚方市としては情報発信やシティプロモーションにも取り組んでおられるということでまた力をいただければと思う。それでは、事務局においてこれまでの議論、意見を参考にしながら、総合戦略の素案の作成を進めていただくようお願いする。

5. その他

○事務局 意見聴取会終了後にご質問やご意見などがあれば、11月6日水曜日までに事務局までご連絡いただきたい。今後の予定としては、委員の皆様からのご意見や、国、大阪府の動向を踏まえながら、第2期総合戦略の素案を作成し、第2回目の意見聴取会にて皆様にお示しし、再度ご意見を頂戴したいと考えている。また、本日の会議録については、事務局で案を作成のうえ、委員の皆様にご確認いただき、その結果を座長と調整させていただき決定したものを、ホームページで公表していきたいと考えている。なお、次回の意見聴取会については、12月以降の開催を予定しているが、後日に改めて、日程調整のご連絡をさせていただく。